

就任ご挨拶

専務理事就任にあたって



日本水道鋼管協会専務理事
狩野 裕二

このたび、日本水道鋼管協会の専務理事に就任しました狩野裕二です。

日頃より、当協会活動に対してご理解とご協力を賜り心より感謝いたします。本年は能登半島地震をはじめ大きな地震が頻発しています。一方で、社会基盤の老朽化に伴う整備など引き続き持続可能社会に向けた取組みが重要となっています。上水道はもとより、当協会の事業活動対象である下水道、工業用水道、農業用水などの各事業においても地震をはじめとする自然災害への備え、老朽施設の更新・再構築への対応が強く求められています。このような時機に大役を仰せつかり、責任の重さをひしひしと感じており身の引き締まる思いです。

日本水道鋼管協会は、昭和42年1月に設立されて以来、ユーザーの皆さまへの水道鋼管に係る技術情報の提供や供給の安定化、需要の拡大などに取り組んでいます。当協会は、長年の経験と豊富な実績を有する鋼管メーカー等の会員企業とともに、上下水道などの公共工事に使用される一般埋設用鋼管や推進用鋼管、海底送水管、断層用鋼管、水管橋、建屋内の給水管に使用される樹脂ライニング鋼管などの各種鋼管はもとより、鋼管用の鋼製付属品や鋼管を使用したシールドトンネル内配管工法、パイプ・イン・パイプ工法、SDF工法、鋼製配水池、緊急貯水槽の設計、製作など確かな技術でユーザーの皆さまの信頼に応えるべく努力を重ねております。

私は、東京都において長年にわたり水道事業に携わってきました。水道施設の整備計画をはじめ、浄・給水施設や送配水管の設計・施工、漏水防止を始めとする維持管理など水源から給水装置に至る水道システム全般にわたる業務に従事しました。水道事業では、資産の大半を占める管路施設をいかに健全に維持するかが安定給水を図る上で最も重要です。鋼管は、高強度、高延性、高靱性の優れた特性とともに経済的かつ軽量で加工性がよく溶接による一体構造管路を形成した高い耐震性を有し、既設管内配管では最小限の縮径で済む材料であることなどから、これまで、管路更新やシールドトンネル内配管、浄水場・給水場内配管などの多様な場面において数多くの鋼管を採用してまいりました。

当協会では、ユーザーの皆さまに優れた鋼管・鋼製品や各種工法を安定的に提供し、さらなる普及拡大を図るため、技術セミナーやWSP講演会の開催、水道資機材展をはじめとする需要家、関連団体の主催行事への参加や巡回PRの展開など、情報提供および広報活動を積極的に展開しています。併せて、上下水道事業や工業用水道事業、農業用水事業の持続や基盤強化、建築設備配管事業の拡大、発展に貢献すべく、鋼管・鋼製品に関わる、各種規格や技術資料の制定・改定などを計画的に進めるとともに、耐震化や長寿命化、更新、維持管理などの諸課題の解決に向けた調査・研究及び技術開発・改良などに取り組んでいます。また、これら調査・研究等で得られた技術情報は、各種研究発表会での報告や学術誌への投稿・掲載等によって、鋼管・鋼製品の最新情報として広く公表するとともに、機関誌やホームページなどを通してより多くのユーザーの皆さまに周知しております。これらの活動のさらなる活性化に向けて、これまで水道事業に携わる中で培ってきた経験や技術力などを活かすことができればと思っております。

当協会は、長年の経験と豊富な実績を有する鋼管メーカー、建築設備メーカーの会員各社と一丸となり、設計から製作、施工に至る確かな技術によって、水道事業者や建築関係者のユーザーの皆さまからの要望に応え、信頼を得られるよう、引き続き、より一層の努力を重ねてまいります。

今後とも、皆さまの御指導、御鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。